

ジョヴァンニ・ベッリーニ作、ディレッティ禮拜室のための祭壇画

—注文主の遺言書に基づく考察—

須網美由紀 (名古屋大学)

ジョヴァンニ・ベッリーニ (1428 頃?-1516) が、ヴェネツィア、サン・ジョヴァンニ・クリズストモ聖堂ディレッティ禮拜室のために制作した祭壇画 (1513) は、完成の約 20 年前に当該教区在住の富裕商人ジョルジョ・ディレッティによって遺言書で希望されたものである。本祭壇画については、従来、主に様式的な側面や構図の特異性に関心が集められてきた。主題解釈に関する本格的な研究は、制作当時の社会的・宗教的な観点から考察したラッタソツィらの論考 (Lattanzi e Coltellacci, 1985) を除いてなされていない。本発表では、等閑に付されてきた注文主の遺言書に基づき、発表者が 2023 年にヴェネツィアで実施した古文書調査の成果を踏まえつつ、先行研究で未だ十分に解明されていない以下の未発表の 3 点を中心に考察を行いたい。

1) ディレッティは、妻オルサと友人で共にサン・マルコ大同信会会員のジローラモ・アルマーノを遺言執行者に選定し、長期的な遺言信託の管理を本同信会に委託している。ジョヴァンニによる制作は、従来、本同信会側からの働き掛けで実現したと漠然と推測されてきたが、オルサの遺言書、アルマーノに関する本同信会史料、およびジョヴァンニが本同信会「接客の間」のために《アレクサンドリアにおける聖マルコの説教》を仕上げた経緯と時期を勘案することで、アルマーノが中心となり画家に依頼した可能性が浮かび上がる。

2) 遺言書に記されたディレッティの希望に沿って、祭壇画には「聖ヒエロニムス、トゥールーズの聖ルイ、聖クリストフォロス」が描かれているが、先行研究では、中でも聖クリストフォロスの選択理由について説得力のある見解が示されていない。発表者は、ディレッティが絹織物商であったことをサン・マルコ大同信会史料で確認できたため、15 世紀後半に絹織物の事業主に加入が義務付けられたサン・クリストフォロ同信会との関連を新たに指摘する。

3) ディレッティは、遺骸を禮拜室内の墓に埋葬し、日々「我が魂のため永遠に」祈りを捧げるよう遺言書で指示している。寄進供養禮拜室という用途にもかかわらず、これまで「死者の聖務日課」の観点から本祭壇画を考察することが看過されてきた。しかし、ジョヴァンニが数多く制作した「荒野で読書する聖ヒエロニムス」図とは異なり、本祭壇画に表された高い山々が連なる特異な風景描写や、画中の半円筒ヴォールトに記された『詩編』の銘文には、「死者の聖務日課」で唱えられる詩編章句と呼応関係が見出される。

以上、注文主の遺言書や関連する古文書に基づく考察を通じて、1) 遺言執行者による画家への注文や制作の経緯、2) 聖人の選択をめぐる、ヴェネツィアの同業組合と関連する同信会との繋がり、3) 本祭壇画の宗教的機能と図像表現の関係性など、先行研究で解明に至っていない様々な課題を明らかにできると考える。